「天気」の赤字に関するおわびと提案

1．はじめに

筆者は編集後記から「天気」を読み始めることにしているが，「天気」'98年3月号（山本，1998）を読んで心が痛んだ．これによると「天気」は年間約220,000円（1会員あたり約48円）の赤字を出しているという．直感的に「毎年毎年，私の漫談を掲載してもらっていることが原因だ」と思った．以下で述べるように，この直感は間違っていなかった．

本稿では，日本気象学会の会員の皆様にこの場をお借りしておわびするとともに，「天気」の赤字を削減するための具体的な提案をしたい．

2．提案とこれに至った経緯

提案：「天気」の赤字を削減するために，原稿種別に関わらず，原則通りオーバーチャージ（印刷1ページあたり10,000円）を請求すべきである．

1992年以降，筆者は毎年最低1本は「天気」に何らかの報告を書いている．その中には，規定のページ数に収まっているものもあれば，大幅に超過しているものもある．原稿の長さの原則およびその変遷については，毎年1月号に掲載される「天気」投稿および内容案内を参照していただくとして，1997年までに掲載されたものの超過ページ数は合計14，原則通りオーバーチャージを支払っていれば140,000円になる．

筆者は，「天気」に投稿する原稿の分量が多い場合，送り状の備考（通信欄）に「オーバーチャージ，どうぞ御請求下さい」と一筆添えることにしているが，これまでに請求書が届いたことは一度もない．これは筆者のような貧乏研究者には大変ありがたいことなのであるが，6年間で140,000円のオーバーチャージということは，1年あたり約23,000円になる．これは山本（1998）で述べられている「天気」の年間の赤字の約1/10に相当する．日本気象学会の会員数は約4,600人（≈220,000円/48円）であるから，この1/10という値がいかに大きなものであるか理解できると思う．すなわち，「天気」の赤字の相当部分を筆者に帰することができるのである．

ここで1992年1月以降の「天気」投稿および内容案内を調べてみると，1997年1月までは「規定のページ数を超えた場合は，編集委員会が了承している場合を除き，原則として印刷1ページあたり10,000円の実費を請求する」と記載されていた．しかしながら，最新のもの（1998年1月）ではこの一文が削除されている．これが意図的なのか偶然なのか筆者にはわからないが，原則通り，原稿種別に関わらずオーバーチャージを請求することを提案したい．これまでに書いたもので規定のページ数を超過したもののうち，筆者だけの文責である4本（松山，1993a，b，1997a，b，超過ページ数計5）については，自腹を切ってでもお支払いする覚悟がある．「いまさらオーバーチャージの請求はできない」ということであれば，日本気象学会に寄付したいので振込先を教えていただきたい．こうでもしないと会員の皆様にあわせる顔がない．

3．おわりに

「松山先生の書きものを楽しみにしています」と言って下さる方がいる．その一方，「松山の文章は長すぎる」と言って下さる方もいる．自分が書いたものに対して反響があるのは，どんなことであれ大変ありがたいことである．筆者が定期購読している学術雑誌（「天気」，気象集誌，気象，水文・水資源学会誌，地理学評論，季刊地理学，地学雑誌，GIS-理論と応用）のうち，海外だよりやシンポジウムのコーナーがあってなおかつ別刷も作れる（これが特に重要）のは「天気」しかない．今後は，なるべくコンパクトにまとめて密度の高い文章を「天気」に投稿するように心がける所存であるが，それでも原則で定められたページ数を超えてしまうこともあるだろう．そのような時でも心おきなく執筆できるように，投稿者も「天気」編集委員会もオーバーチャージに関する規定を遵守すべきだと考える．

今回はさすがに，他人が「天気」に公表した原稿の長さと原則で定められたページ数との関係について調査する余裕はなかった．しかしながら，原則通りオーバーチャージを請求することで「天気」の収支はかなり改善されるはずである．「天気」編集委員会でもぜひ

© 1998　日本気象学会

検討していただきたい.

最後になりますが,「天気」の赤字の元凶となっていることを，重ね重ねおわび申し上げます.

(東京都立大学大学院理学研究科地理学教室
松山　洋)

参 考 文 献

松山　洋，1993a：アマゾン・アメリカ漫遊記 Part 1：再びペルーアマゾンへ，天気，**40**，854-858.

松山　洋，1993b：アマゾン・アメリカ漫遊記 Part 2：アメリカ東海岸を行く，天気，**40**，917-921.

松山　洋，1997a：都立大科学考察団ユーラシア大陸二人旅，天気，**44**，669-676.

松山　洋，1997b：「天気」の参考文献の書き方に関する意見，天気，**45**，887-889.

山本　哲，1998：編集後記，天気，**45**，246.